

令和2年6月20日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

令和2年度 第3回

コロナのおかげ

おはようございます。御無沙汰を致しました。

皆様はマスクをして、私はフェースシールドをしておりますから、いつもの感じとは全然違いますね。世の中がどんどん変わると感じます。

コロナウィルスに未だどなたも感染しておられないので安心しました。ご自分の身近で感染や濃厚接触者が出たという方はおられますか？・・・おられないようですね。結構なことです。

幸いシムックスも群馬郵便送達も感染した社員はおりませんでした。ただ社員の方で、息子さんが外国から帰国し二週間の自宅待機となったので、一緒に暮らしている自分も様子をみたいという理由で二週間お休みをとった方がいました。また、お孫さんが通っている保育園で感染者が出たという社員もいました。大分、身近にコロナが来たなという感じがしておりました。

今回のコロナ禍は、私にとって良い面もありました。世の中が変わるということを感じました。何といても人間は身体で感じるのが肝要です。65歳以上の人が感染すると危ないと色々な所から忠告を戴きましたので、私は赤城山にこもりました。そうしましたら、良いことが沢山ありました。学生時代は自炊をしたのですが、50年ぶりに米をといで自分で料理をしました。もちろん現在もやっています。今頃になってマイ料理なるものを始めることが出来たのは、コロナのおかげだと思っています。

それから、自分の人生で新しい生活が見えてきました。赤城山の自然の中にずっといるので人と会いません。朝、新緑の中で目が覚めて鶯の声を聞く、かなりのんびりした良い時間が過ぎました。同時に、今まで溜まりに溜まっていた資料のチェックや整理がはかどりました。赤城山にこもることによって、終活がだいぶ進んだと思っています。自分の人生の締めくくりの中で、これはやる、これはやらないということが明確になってきたので、とても良い日々を過ごさせてもらいました。これもコロナのおかげだと思っています。

判断の三原則で考える

では、本題に入ります。コロナウィルス感染症について、判断の三原則で考えましょう。

本質・・・本質はマクロで捉えます。本質は、人類が増え過ぎたという一点です。人間が増え過ぎたことによって、今まで食べたことのないものも沢山食べることになるから、野生動物の領域を侵すことになります。それによって新種のウィルスが人間に感染していく。その流れが今回のコロナだったと考えています。

地球上には、生き物でみれば生物と植物と細菌の三種類しかないと学問的に定義づけられています。地球が誕生してから現在に至るまで、生物と植物と細菌のバランスがとれていました。その中で、生物（動物）の中の人類だけが突出して繁殖し過ぎたわけです。そして、人類が勝手に野生動物の領域を侵し、野生動物（コウモリや蛇やハクビシン等々）と共生しているウィルスが人間にうつる。それが、以前は何百年に一回という流れだったものが、百年に一回になり、最近では30年に一回、甚だしい場合は10年に一回、又はそれ以下の流れになってしまった。それだけ人口爆発があまりにも酷いということだと考えます。人類は生き延びて当たり前だと思いながら繁栄していったわけですが、そのなかで野生動物はどんどん減っていく、ウィルスは本能で必死になって人類にアタックし始めたのだろうと考えています。

本質的な部分は人類が増え過ぎたということですが、それを止めるのはやはり自然の摂理で、自然が人類を減らそうとしている。つまり、地球の調整機能の一環で、今回のコロナが起きていると感じます。自然の摂理だから、人類は減るべき時には減るのだろうと思っています。

歴史・・・100年単位で見て、最初、私は大正7年のスペイン風邪を参考にしていました。スペイン風邪の場合、世界の人口約20億人のうち4000万人位は亡くなったという記録が沢山世の中に出ていましたが、これにはアフリカ諸国の死亡者がカウントされていなかったため、その後8000万～8500万人、表に出ない数を入れると約1億人近い人が亡くなったという数字が発表されています。これは、やはり自然の摂理ということだと思います。

その後起きたのがアジア風邪、そしてホンコン風邪です。どちらも死亡者数はスペイン風邪に比べると非常に少ない数字です。

歴史を遡ると、今回のコロナと似ている感染症はペストでした。私は、カミュの『ペスト』とデフォーの『ペスト』という小説が当時の状況をかなりリアルに描写しているということで、両方とも読んでみました。スペイン風邪やサーズ、マーズは、症状が出てから抑えたのでも十分間に合ったということですが、ペストは元気に動き回っている人が急に動けなくなって死んでしまう。本人が自分はペストにかかっていると自覚症状がないまま

動き回って、他人にうつしていく。まさに、今回のコロナと同じでした。

ペストの場合どう抑え込んだかという点、最初はロックハウスです。ペストに感染したと医者が確認したら、家ごと封鎖して家族も外へ出られないようにします。更に、政府が失業者を雇ってその家に見張り人として立たせて逃げ出せないようにしましたから、中の人はペストにかかって死ぬ運命です。今回のコロナもロックダウンをしていますから、基本的な所は同じです。

ただ、ペストの頃と現在と違うのは、感染するスピードが明らかに違います。コロナウイルスは一瞬にして世界全体に広がりました。ペストの場合は、ゆっくり広がりました。戦争で兵隊が侵攻して行き、その先でペストが広がり、兵隊がどんどん死んでしまって戦争自体が収まるというような状況でした。

ペストによって、ヨーロッパでは人口が半減したと言われています。そうなるまであった仕事が出来なくなりますから、従来と違う社会形態が生まれました。そういう歴史的な流れをみると、今回のコロナも社会の仕組みが変わってゆくという点で、そっくり同じだと思っています。まさに歴史は繰り返すと感じました。

大局・・・大局で見ると、グローバリズムが終わったということだと思っています。グローバリズムとは、アメリカが自国に良かれと思って、世界中にアメリカ経済のルールを広げた。グローバリズムは良い事だと押し付けていったわけです。世界中が皆つながり合って経済がどんどん発展していく、世界にとって良いと言われたグローバリズムが、終焉を迎えています。それには、先にトランプさんが始めた自国ファースト（自分の国が第一。自国が良ければいい）が先鞭をつけたとも言えるでしょう。

これから起きてくることは、それぞれの国が自国ファーストになるので、食料が世界に行き渡らなくなります。自国の国民を飢えさせないために、自国で生産した食べ物・飲み物は先ず自分の国だけで使い、余った分を輸出するようになる。大局的に見ると、各国が循環型経済社会になります。私は、日本の江戸時代の末期頃の形態を世界各国が目指すのではないかと感じています。

以上が判断の三原則から見た新型コロナウイルス感染症です。

現状把握・・・国内

安倍内閣は基本的な考え方を間違えていましたから、日本の国はかなり困った状況だと私は思っています。安倍さんは最初から、補償はしないと断言しています。国が休業すると指示をするならば、当然、休んだ分の補償をしなければいけません。ところが補償を

せずに、援助・支援・給付と、言葉は一見良さそうですが、侮辱していますね。人間である限り自主独立・独立独歩（自分の力で生きていく・自分の足で歩いていく）という考え方を進めていくのが為政者でなければならないと思います。その為政者が、援助しましょう・支援しましょうなどと、上から目線で恵んであげるといふ姿勢ですから、ものの考え方が根本的に間違っています。しかも、税金を恵んでやるというもおかしな話だと私は感じています。

講話の後に質疑応答の時間がありますが、あらかじめ質問を戴いた中に、澤浦会員からMMT（現代貨幣理論）について、『まだ、MMTを知らない貧困大国日本』（小浜逸郎著 徳間書店）という本を読んだが分からない部分がある、という質問がありました。

MMT理論とは、国が経済破綻を起こすのは外国から借金をしている場合であって、自国で消化出来るお札を発行している状況が続いている間は、その国は順調に伸びる。いくら国債を発行しようが、自国の中だけで賄っていく限り心配ない。だからどんどん紙幣を刷りまくっても、経済破綻しない・・・という理論です。

以前、MMT理論を聞いた時、気になって調べました。この本の中にも、インフレ率をよく見なければいけないと書いてありますが、MMT理論の致命的な欠陥は、インフレが発生して一線を超えればハイパーインフレが起きます。すると終戦直後の日本や、第二次世界大戦後のドイツと同じことになります。ドイツは凄まじいハイパーインフレが起きました。日本の場合はハイパーという程ではありませんでしたが、それでもかなりのインフレが発生し国民は大変な思いをしました。

最終的に、MMT理論なるものはハイパーインフレをもたらす理論であると思います。ですからこの本に書いてあるものは、あるところまでは当りです。そして面白いことに、MMT理論を率先して実践しているのが日本だと世界から見られているのです。ということは、ハイパーインフレが日本で起きるだろうということが裏付けられているとも言えます。

今回安倍さんは、好んで実行している訳ではないでしょうが、コロナ対策のために具体的な対応は税金で賄うということで、赤字国債の発行を思い切ってやらざるを得ませんでした。実質的に補償をしなければならないからです。安倍さんのやり方は基本的に哲学に欠けていたし、リーダーとしての資質に欠けていました。ドイツのメルケル首相やイギリスのジョンソン首相、台湾の蔡総統等々、各国のリーダーは自分の信念（哲学）をもって

国民に語りかけていったため信頼を受けました。ですから支持率が上がりました。安倍さんは急落しました。

どこの会社でも、トップが社員の事が分からなくなったらお終い、お客様の顔が見えなくなったらお終いです。国家も同じで、国民の声が直に届かなくなったらお終い、国民が何を考えているか分からなくなったらお終いだと云われています。安部さんはまさにその典型にどっぷりはまった状況だと感じています。

「中斎塾通信号外」にも書きましたが、私は、安倍さんが緊急事態宣言を発した会見をテレビで見えていましたが、腹が立って腹が立って仕方がありませんでした。こういう人が総理大臣でいいのか、こういう人を総理大臣として許容している日本の国も困ったものだ、とつくづく思って途中で見るのをやめました。

私は昔、安倍さんの話を直に聞いたことがあります。木内信胤先生の関係の集まりでしたが、安倍さんがまだ陣笠代議士で、中川代議士と一緒に出来て来て挨拶をしていました。その時感じたのは、こんなお坊ちゃまでも今の日本は二世議員として票を受け継いで代議士になれるのか、という印象です。こういうお坊ちゃんはそのうち消えるだろうと思っていたのが、あれよあれよという間に内閣総理大臣になり、すぐに投げ出して、また内閣総理大臣になって、どんどん自分の都合の良いように法律を変えて、長持ちするような法律をこしらえて現在まで至っています。残念ながら日本人はこれを許容してきた、というより気にしていなかったわけです。

ですから今回のコロナによって日本の民主主義なるもの、日本の政治の仕組みがあまりにも酷いと思う人がどれくらい増えたか、特に若い人達がどれくらい感じたかによって、日本の政治の仕組みは変わるであろうと思いました。

その中で光ったのは大阪の吉村知事と、北海道の鈴木知事です。小池都知事も遅まきながら光りましたが、小池さんの場合はコロナに対応するのが遅すぎました。いずれにしてもそれぞれの自治体の長は捨てたものではないという印象を持っています。

今回のコロナは、幸い日本では感染者が少なく、死亡者も少なかった。実際はかなり下駄を履いていると思っていますが、いずれにしてもヨーロッパと比べて違い過ぎます。その理由は二つ考えられると思います。

一つは、突然変異したウィルスの性質が、ヨーロッパやアメリカで広がったものと日本やアジアで広がったものとは違っているのではないかと考えられます。突然変異したウィルスが17種類で、各国に広がっていったのは大まかに分けて3つの型に分類されている

ようですが、アジア型とヨーロッパ・アメリカ型とは突然変異の中身が違うのではないかというのが一つです。

もう一つは、日本人の国民性です。これは他の国とは段違いです。マスクをするのが当たり前の国と、マスクは病人がするもので健康な人はすべきでないと思っている人たちとの違い。労働に対する考え方にしても、労働は神聖な良いことだと考える日本人と、労働は懲罰だと考える国々とは根底から違います。そういった違いが、今回のコロナによってあからさまになったのだと感じています。

現状把握・・・国外

今回のコロナ対応では、ドイツのメルケル首相と台湾の蔡総統が印象的でした。それからイギリスのジョンソン首相も申し上げておきましょう。

イギリスは最初、国民の6割から7割が感染したら免疫が出来るからそれまでは若干の死者が出て致し方ない、と集団免疫獲得の路線で走り始めました。ジョンソン首相はそれを明確に公表したのだから、メディアで叩かれて、途中で方針転換をしました。

日本の場合はそういう発表はしませんでした。やっていることを見ると同じでした。国民の6割7割がコロナにかかれば自然と収まって来ると考え、感染者が沢山出たということは表面化させたくないものだから、PCR検査も絞っていました。酷かったのは、途中で改めましたが、感染したと思ってもまずは家で様子を見て、耐えられなくなったら病院に行ってもよいということでした。常識で考えれば熱が出たら医者に行くわけですが、家で様子を見なさいというのですから、その間に家族にうつりますね。家族全員が感染して、死ぬ人は死んでもらってよいという考え方が根底にある。これはペストと同じだと感じました。ですから日本の基本的なコロナに関する考え方は、国民を見捨てている、見殺しにするという発想で始まったのかなと思います。見殺しにすることと、イギリスのジョンソン首相の言ったこととは違うと思いますが、イギリスは公表して始めたけれども、日本は内緒で始めた。これが大きく違うと思っています。

情報を共有するという点で考えると、情報を共有してこういう手を打ちたい！と素早く動いたのは台湾です。台湾政府はコロナウィルスが発生したと分かった時、直ぐに対策室を立ち上げて行動に移し、水際で止める作戦を始めました。また、マスクの対応も早かったですね。マスクを国内で大量に生産して、それを国家が全部買い上げて、薬局で保険証で本人確認をすればすぐには買えるようにしました。

ドイツでは、8年前からコッホ研究所がこれからドイツで起こるであろう感染症とその被害を想定した報告書を政府に提出していました。それを見て政府は対策チームを作り準備をしていたので、コロナが発生したと同時に対応を始めました。メルケル首相はそういう段取りを国民に向かって話しかけたのです。しかも、自分自身の体験に基づいて話をしていましたから、国民に、<この人に付いていけば大丈夫だ>という安心感を与えました。

国民が、このリーダーなら安心だと思って付いていく。これは論語の一節にもあります。「民は之に由らしむべし、之を知らしむべからず」・・・トップが自分はこのことをやりたいと思って国民に一所懸命訴えかけるけれども、なかなか自分の真意が伝わらない。しかし、国民はその人の実行力を見て、人間性を信じて、後から付いていく。図らずも今回は、あるべき政治のリーダー像をヨーロッパが示したと思います。論語を生んだ中国は、それとは正反対でしたから。

他にも、国民との対話で印象に残ったのは、ニュージーランドのアーダーン首相です。公務時間以外にも、子供を寝かしつけた後に自宅のリビングから普段着で動画を配信し、国民の質問に対して母親目線で寄り添うように丁寧に答えていました。安倍さんも自宅で犬を抱いてくつろぐ動画がありましたが、国民の感覚とはまるで違いました。

ご存じのように今回のコロナは、中国がウィルスを発生させたという説とアメリカが発生させたという説があって、両国がお互いに発生源のなすりつけをしています。どちらにもウィルス研究所があって、国家が細菌兵器を研究しています。それらの淵源を辿ると、日本にあたります。日本は戦時中、「丸太棒」という隠語で、捕虜に細菌を植え付けて人体実験をしました。終戦後、アメリカ軍はその部隊の研究者たちを自国に連れ帰って優遇し、研究を続けさせました。これはほとんど資料に残っていませんが、現実として存在しますから、私はそれが今のアメリカの細菌兵器研究の出だしだろうという実感を持っています。一方、中国は人体実験をやられていますから、同じような研究をしたのだろうと思っています。

今回の日本政府の対応は、感染者が何十人出ても平気でした。それは細菌戦争が世界で始まっているという自覚がないからです。そういう自覚を持っている国々は、即座に水際作戦を実行した。そう私は感じています。

ということで、国内と国外の対応を比べると、あまりにも違い過ぎたと感じています。国外は、あるべき政治のリーダー像を出現させて、補償も一氣に行いました。

安倍さんはいつ退陣するか、そのタイミングを計っているところだと思います。できれば自分の影響力を残す人を次の首相にしたいのですが、どうなることやらと思います。若い人たちの票がこの次の選挙でどう動くかによって、まるで変わるでしょう。

安倍さんは現場とあまりにも遊離し過ぎました。政治は、直接現場に行って現場の苦しみをを感じる人がやらなければいけません。現場のことを知らな過ぎるから給付金や助成金の対応も後手に回っているのです。現場主義は正しい・・・世界各国の政治リーダーが身体で示したと私は感じます。

これからの予測と準備

現在、シムックスも雇用調整助成金の申請をしていますが、聞いていて腹が立ちました。大企業は何種類もの書類を全部出せますが、体力の違いでしょう、中小企業は大変です。しかも同じ書類を全部紙に出して、あちこちのハローワークに送らなければならないのです。なんという非効率なふざけた仕組みだと思いました。判子文化もそれに繋がっているわけでしょう。

今回、あまりにも政府の非効率な行政の仕組みが露呈しましたから、一気にオンラインが進んで当たり前だと思います。オンライン後進国である日本は、これから必死になってオンライン化を進めるでしょう。テレワークやオンライン会議、オンライン診療・・・どんどんオンライン化が進みます。

そして、ふざけたことに政府はそれに乗かってマイナンバーを普及させようとするでしょう。今回、給付金が直ぐに届かなかったのはマイナンバーが定着していなかったからだと言い出すに決まっています。そう言うのであれば、本音をきちんと言うべきです。国民の口座から税金を一人残らず取りたいがためにマイナンバーを普及させたい、という本当の目的を、国民にきちんと言うべきだと私は思います。

直近の予測としては、廃業がもの凄い数になるでしょうし、解雇される人が急増しますから、自殺者も増えるでしょう。倒産も急増します。コロナで裁判所が受け付けなかったので正式に倒産としてカウントされないけれども、実質的に倒産している件数が表面化するはずですが。廃業・解雇・倒産、これが圧倒的多数だと思います。

一方、その中にチャンスをしっかり掴む人たちが生まれる。コロナによって仕事が増える、チャンスが広がっていくという状況もあります。ですから悲喜こもごもの状況が出てきます。

住居は、オンラインが進みますから、都内から地方に変える動きが出てきます。

買物は、ドライブスルーや無人化が進みます。都内には無人コンビニも出来ているので、今度体験してみたいと思っています。以前、ロボットが受付をする「変なホテル」に泊まった話を致しました。その後、ロボットコーヒー店も行きました。無人化されたホテル、無人化されたレストラン、無人化されたコンビニ等々が、雨後の筍のように出現すると感じます。その結果、進んで行くのはキャッシュレス化です。第二波が来る前に、キャッシュレスがどんどん広がると思います。

生活様式で言えば、マスクや手洗い、うがい等々は当たり前になりつつありますが、それを無意識のうちに行う社会が第二波の前に定着すると思います。また、スーパーなどの入り口で買い物客が入店する時に除菌ができるミストのような商品も広がると思っています。

以前から申し上げているように、第二波はおそらく秋口、10月を軸にしてその前後に起きる。起きなければ、年が明けたら直ぐに起きると思っています。第二波が起きれば、二回目の緊急事態宣言が出されるでしょう。

そして、第二波の後に出てくるものは何か。私は、やはりスタグフレーションが起きると思っています。倒産や廃業が急増し、失業者が増えるから、国民は収入が減ります。政府が出すお金は雀の涙です。収入が減っているところに、品物がなくなって物価がどんどん上がり、国民は自給自足をせねばならなくなる。最終的には戦後の闇市のような社会が現れてくるだろうと思っています。第二波以降、世界中がそういう状況になって来ましょう。ですからそのための準備をしていく必要があります。

個々の準備としては、食べ物・飲み物等は3ヶ月分くらい備蓄をした方が良いでしょう。尚且つ3.11のような大災害が重なった場合は、キャッシュレス社会ではあるけれども現金を持っていないと物が買えない場合がありますから、3か月分くらいの現金も必要でしょう。詳しくは、皆さんにお送りした「中斎塾通信号外」に書きましたので、参考にして戴きたいと存じます。

お時間になりました。以上で本日の講話は終了です。お互いコロナにかからないように十分気をつけて、また来月お眼にかかりましょう。